

部 長 千 田 道 子
研究主任 吉 田 ゆかり
部 員 数 1 8 名

1 研究主題

持続可能な社会の形成を目指し、生活者として主体的に実践する子の育成
～SDGs を身近なものに～

2 はじめに

家庭科は、あらゆる分野で SDG s を意識することができる教科であり、家庭科の授業を通して、児童が「SDG s って身近なんだ」「自分たちにできることがたくさんあるんだ」と実感し、SDG s の理念を達成するためにできることを具体的に考えられることを目指したいと考えた。そこで、家庭科の各分野で持続可能な社会の構築等の視点をもつことができるような題材を工夫し、問題解決的な学習を通して、正しい理解を伴った知識や技能を身に付けさせ、家庭生活の中で活かすことができる児童の育成を目指し、実践・研究を行った。

3 研究経過

研究テーマに沿って授業案を立案・検討し、各部員の勤務校において実践した。成果と課題を持ち寄り、研究を進めた。

4 研究の概要

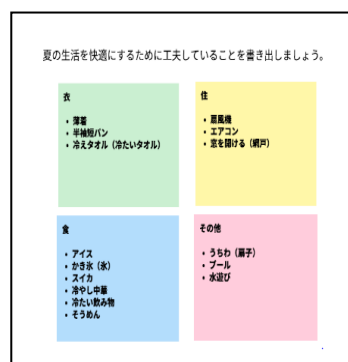
6 年生「夏をすずしくさわやかに」の実践

(1) 実際の授業の流れ

ア 夏の生活の特徴から、工夫していることを見つける

夏を快適に過ごすために自分が工夫していることについて、衣・食・住・その他の4つの視点から考えた。友達の考えを共有ノートで見た後、全体では教科書を見ながら、グリーンカーテンや打ち水をしたときの地面の気温の違いを確認した。最後に、「クーラー

をガンガンつける」と書いていた児童のノートを取り上げ、「確かに、夏を快適に過ごすために必要なことだね。だけど環境に優しいとはいえないね。環境のことも考えながら、自分も夏を快適に過ごす方法はないかな？」と考えさせた。児童からは「クーラーをつける前に窓をあける」「クーラーのタイマーを活用する」「クーラーの設定温度を26度にする」など、環境のことも考えた意見が出された。



イ SDGsについて調べる

前時に「SDGsについて知っているか」と質問をした際、「聞いたことはあるけど、内容についてはよく知らない」と答えた児童がほとんどだった。そこで第2時は、SDGsとは何かについて調べる時間を設定した。そして、家庭で行っている夏を快適に過ごす住まい方の工夫でSDGsにつながることを家庭でも調べさせた。



ウ 自分たちの家で行っていたSDGsの取り組みについて考える

次に、児童が調べてきた家庭で行っている夏を快適に過ごす住まい方の工夫について全体で共有した。「意外と自分も家族もSDGsにつながることをやっていた」「全然環境を意識していないことがわかった」「お母さんの行動の中でなぜそうしているのか分からないことがあったけどSDGsにつながる行動だった」など、SDGsは難しいことではなく、自分たちにとって身近であることに気づいた。

エ 快適で安全な着方を考える

暑い季節を快適に過ごす工夫を衣服の働きや着方から考えた。場面によって、衣服の着方も変わることについて考えた。

オ 洗濯の仕方を調べ、手順に従って手洗いをする

服のタグについている洗濯表示について学習した後、手洗いの学習をした。ふり返りの中には、「手洗いがこんなに大変だということを初めて知った」「目に見えて汚れが落ちているのがわかり、きれいになっているのが実感できた」「もみ洗いやつまみ洗いをすると汚れがたくさん落ちた。汚れているところを特に意識して洗えたし、洗濯機よりも汚れが落ちるような感じがした」など、手洗いの大変さや良さについて考える児童が多く見られた。



(2) 成果と課題

今回の授業をSDGsとつなげて学習させたことで、今までの自分の取り組みがSDGsにつながっていることに気付いた児童が多くみられた。これからも、あらゆる生活の場面で、持続可能な社会をつくることにつながる工夫を考え、実践していくことができるよう、継続して指導していきたい。

5 今後の課題

児童のふり返りには、「電気や扇風機をこまめに消す」「水を出しっぱなしにしない」「ごみの分別をする」「食べ残しをしない」など当たり前のように行っていることがSDGsにつながっていて、意識すればたくさんできることがあると気づいた記述が多く見られた。今後も自分たちの実践について交流を図りながら、児童がより深く持続可能な社会をつくる一歩を家庭科で実践できるよう研究を重ねていきたい。